

多様な考えを基に道徳的価値を理解し、自己を高めようとする児童の育成

—ネームカードの活用による考えの視覚化を通して—

特別研修員 道徳 小沼謙二(小学校教諭)

児童の実態

- 自分の考えを表現することに消極的
- 自分の考えに固執してしまう



手立て ネームカードの活用

- ① 班の意見交流で
- ② 全体の共有場面で

授業実践 主題名「自分ができていること」C-(16) よりよい学校生活・集団生活の充実
資料名「どこかでだれかが見ていてくれる—福本清三」(出典 文溪堂)

手立て① 班で意見交流する

自分がきられ役ばかりやるとしたら、どんな気持ちですか。



自他の考えを分類(表現)する。

ネームカード活用のポイント

プラス・マイナスで自分の考えを表し、明らかに(視覚化)する。

きられ役も重要。しっかりやった方がいい。

プラスの考え方

自立たないから、主役がやりたい。

マイナスの考え方

ミニホワイトボード

手立て② 全体で多様な考えを共有する

福本さんがきられ役を工夫していったのは、なぜでしょうか。

全体で意見を整理し、自他の考えを(多様に捉えながら)共有する。

ネームカード活用のポイント

同意見のところにネームカードを貼り、全員の考えを整理(視覚化)する。

いいかげんにやったら映画が成り立たないから。

児童の意見をネームカードで整理

黒板

主役をカッコよく見せたいから。

手立て①②の(視覚化した)考えを基に、道徳的価値の理解につなげる。

自分のことだけで周りのことを考えていなかった。

きられ役より主役の方がいいと思っていたけれど、福本さんは映画や周りのことを考えている。

これまでの自分の役割を考え、自己を振り返る。

掃除など手を抜いてやらずに、みんなのためになると思ってやっていきたい。

委員会の仕事はみんなが気付かないくらい多いけれど、学校のために頑張りたい。

多様な考えを基にして道徳的価値を理解し、自己を高めようとする児童



- 手だて①のネームカード活用で、自分の考えが明らかに(視覚化)でき、自分の言葉での表現が容易になった。
- 手だて①や②のネームカード活用で、個から全体へ考えが整理(視覚化)され、多様な考えに気付くことができた。
- 自己の振り返りでは、一連の活動で道徳的価値が理解でき、自己を高めようとする意見も見られるようになった。

課題

- 二極化した考え方の時だけでなく、学習内容に合わせ、ネームカードの使用方をさらに工夫していく必要がある。
- ネームカードを2回使用することは時間がかかることから、1回使用を含めた授業構成についても考える必要がある。

成果